

## 論述ブースト No.17

## 医療倫理の4原則を使いこなす

## —— 自律・善行・無危害・公正を論証の骨格に

**目標：**No.3で学んだ4原則の「使い方」をさらに深化させ、複数原則が複雑に絡み合う高難度の倫理事例（安楽死・強制治療・資源配分トリアージ）に対して多層的に論証できるようにする。

## 授業の仕掛け（直感への衝撃）

**導入：**「安楽死は認めるべきですか？」→「本人が望むなら認めるべき」と即答する生徒が多い。しかし「本人の意思確認の方法・医師の良心的拒否権・社会的スロープ効果（合法化が広がりすぎる懸念）」という3つの問題を論じなければ倫理論述とは言えない。

**核心：**4原則の高度な活用：①単独原則の適用 → ②2原則の衝突 → ③3～4原則の複合的衝突と解決（最高難度）

## 採点者の視点

採点者はここを見ている —— 医療倫理4原則・論証の骨格で合格答案は  
こういう「構造」をしている

## ① なぜ同じ内容でも評価が違うのか

清光学院の講師陣は、これまでに皆さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何千枚も採点し、合格・不合格の判定を下してきました。その経験から言えることが一つあります。

**「正しいことを書いていても、論証の構造が見えない答案は、採点者の印象に残らない。」**

医療倫理4原則・論証の骨格では、4原則を使いこなす根拠が答案の質を大きく左右します。

## ② 医療倫理4原則・論証の骨格で採点者が見ているポイント

「4原則のどれが衝突しているかを特定し優先順位を根拠とともに示した答案」が採点者評価を最も上げる

 この授業の使い方

各問題のワンポイントには「採点者がどこを評価するか」の視点が含まれています。結論を出すだけでなく、論証の構造を意識しながら取り組んでください。

## ③ 総合型選抜・口頭試問でも同じ構造が問われる

採点者（大学教員）が口頭試問で確認したいのは「意見があるか」ではなく「なぜそう考えるかを構造的に説明できるか」です。この授業で習得する「論証の骨格」は、あらゆる試験形式に通用します。

## 続きは講義でご覧いただけます

この教材には、採点者の視点・核心的な解法・入試問題・演習・まとめがさらに収録されています。

大学教授陣が設計した「普通の授業では出会えない接続点」を体験できる完全版は講義でご提供いたします。

清光学院 AP SEIKO 理系講座 © 清光教育総合研究所